

第Ⅳ部

法政大学教職課程・ 教職課程センターの報告

2016年度教職課程の報告

教職課程センターのサポート機能の充実を目指して

教職課程センター市ヶ谷相談室 木村 俊二

まずはじめに、本年度、教職課程センターに通い、さまざまな不安や葛藤に立ち向かいながら最後まで「教職への夢」を持ち続け、みごと4月から教師としての新たな人生に踏み出すことになった卒業生の皆さんへ心からのお祝いの言葉を贈りたい。

本年度の教員採用試験は民間企業の就職活動が早まったこともあり、例年に比べても精神的に厳しいものがあったことと思われる。特に、各自治体の1次試験が始まる時期には、友人の中で民間企業の就職の内定の通知を受けた人もあり、不安と動揺が交錯する毎日ではなかったのかと思われる。また、1次試験を突破した場合にも、2次試験の可否の結果によってその後の生活は大きく変わることになるかもしれない不安で落ち着かなかつたのではないだろうか。しかし、多くの皆さんはそれらと格闘しながら「教師第1志望」を貫き、ほぼ全員が公立校あるいは私立校の専任教員・常勤講師・非常勤講師としての進路が決定したのである。あらためてその努力に心からの拍手を送りたい。

ところで、本学の教職課程センターは、準備室の期間の1年を含めて本年度で6年目を迎えた。この数年、教職課程センターの学内における認知度も徐々に高まり、学部生はもとより院生や通信教育学部生、さらに卒業生からの相談も増加している。

そこで、教職課程センターが教職を目指す学生の皆さんの期待に応え、サポートセンターとしての機能をより発揮するために、4年間の相談指導の経験を踏まえ私の所見を述べさせていただきたい。

第1に、さらに教職という仕事の魅力と意義を積極的に伝える活動を行う必要がある。以前からも「教職科目は履修するが、教員にはならない」という学生は少なくなかったが、この数年の相談活動の中で「教員の仕事は大変そうなので受験はしない」との声をしばしば聞くようになった。たしかに今日の学校教育を巡るさまざまな議論や問題発生等の報道の影響で、教師という職業の困難さや厳しさが多くの学生に「教師への道」を躊躇する一つの要因となっているのは事実である。しかし、教師という職業の重要性は昔も今も変わらない。躊躇している学生に対しては、何よりも学校教育の現場を知らせることが大切である。そこで、これまで公立中・高等学校等の授業見学や学習ボランティアの紹介を行ってきた。それらを通じて、教育現場の厳しさとともに教師の仕事の魅力や生きがいを学んでくれたと思っている。今後は、卒業生を招いての講演会やシンポジウム等を行うなど、学校の現場を知らせる取り組みをさらに積極的に行っていくことが求められる。

第2に、教員採用試験のしくみやその準備についての周知をより早期に行う必要がある。現在、「教職ガイダンス」を4月当初の入学時に行っているが、その後は教員採用試験の現状やその準備について知ることは各自に任されることになる。そして3年生の後半になって本格的な準備を開始するが、試験勉強の大変さに気づき最終的に受験を断念せざるを得ない学生も少なくないのが現状である。そこで、これまでも1・2年生対象の「教員採用試験ガイダンス」を実施してきたが、教職課程センター単独での取り組みには限界がある。教職・資格担当を中心にしながら、より効率的な方法を工夫することが求められる。

第3に、教職をめざす学生のネットワークづくりのための支援が求められる。これまで相談に訪れる学生に質問してみると、「自分の周りでだれが教職を目指しているのかわからない」という答えが大半であった。また、最近の学生の「受け身的傾向」によるものか、教職科目の講義の中で積極的に仲間づくりを始めようとする学生も少ない。そこで、これまで教職課程センターの呼びかけによる「教職を目指す自主学習サークル」を立ち上げてきた。そして、同一教科のグループごとに「模擬授業」や「面接練習」などを行い、共に切磋琢磨しながら採用試験に向かう学生が生まれてきた。サークルに参加した採用試験合格者からも、「この体験が自分自身の試験勉強の大きな支えとなった」と大変好評であった。今後も、教職課程センターとして、このような「ネットワークづくり」に向けた支援をさらに充実していく必要がある。

第4に、教職課程センターからの情報提供の充実である。この数年、私立校の教員志望者に加えて、小学校教員や教職大学院への進学を希望して相談に訪れる学生が増加傾向にある。しかし、これまでどちらかといえば「公

立校受験」に関する情報提供が主であった。そこで、本年度は「私立校受験コーナー」を設置し、私立校から送付された募集要項や私学協会主催による各種セミナーなどの整理・保管・周知を積極的に行った。特に、本年度は、例年よりも私立学校からの求人が多く、1月に入ってからの内定を受けた学生もいた。今後も教職を目指す学生の選択の幅を拡大するためにも情報提供の充実を図っていく必要がある。

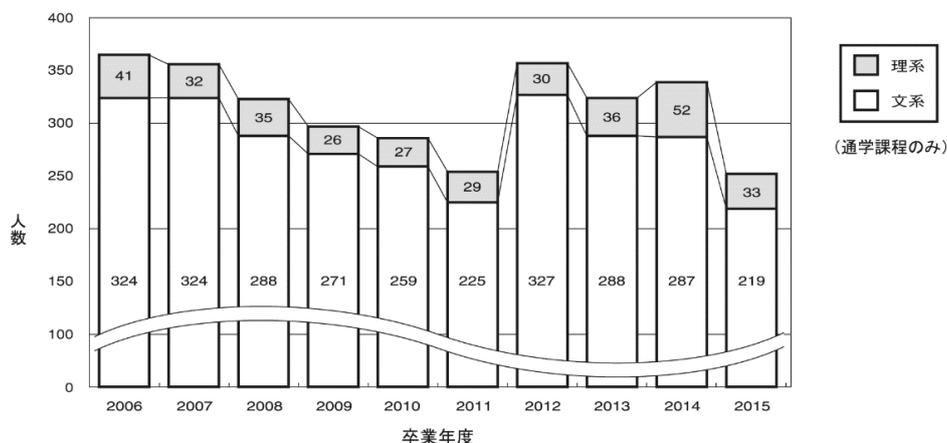
数年後には、児童生徒数の減少等に伴い、教員採用試験をめぐる状況の変化も予想されるが、教職課程センターが、今後、なお一層「教職をめざす学生の学びと交流の場」として発展することを大いに期待したい。

1. 教職課程履修者および免許取得者の状況

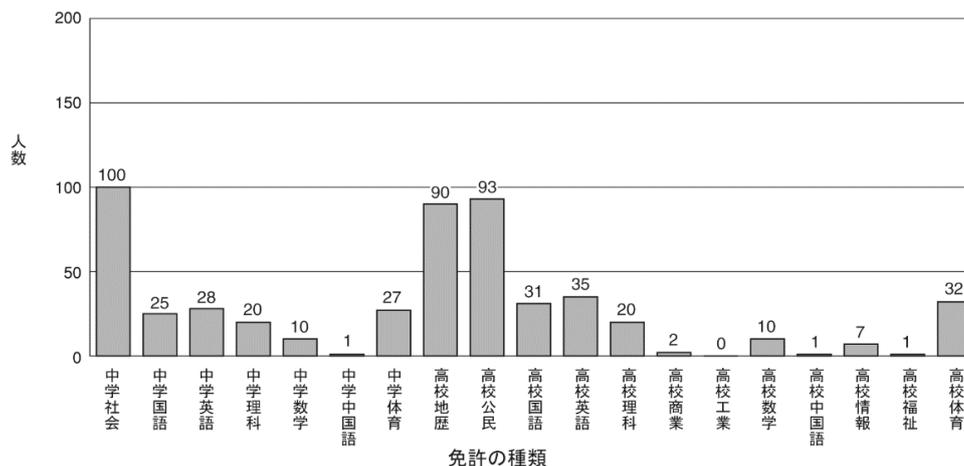
1) 免許取得者数の推移

免許取得者数は、2015年度卒業生では学部生が252名、科目等履修生が8名、大学院生7名であった（2014年度は学部生339名、科目等履修生8名、大学院生8名）。この数字は全学部卒業生数の約4.2%に当たる（図表3参照）。教員免許取得者数のここ数年の変化は、下記のグラフのとおりである（図表1参照）。教員免許取得者区分の詳細は、＜図表2＞に示した。法政大学が設置する教職課程の増加（図表8、9参照）などもあり、教員免許取得者数は2006年をピークに300人を超える状況が恒常的に続いてきたが、その後は減少傾向で推移した。しかし、2009年度に新設されたスポーツ健康学部の免許取得を目指す学生数は100名近くに上り、2012年度免許取得者数は大きく増加した。2013、2014年度はその水準を保ってきたが、2015年度は252名に減少した。

＜図表1＞教員免許取得者数の経年変化（大学院、科目等履修生、通信教育生含まず）



＜図表2＞2015年度の教員免許の種類別内訳（専修免許は省略、通教は含まず）



＜図表3＞法政大学における2015年度教員免許取得者数と割合

学部	中学一種					高校一種										中学専修					高校専修										免許取得者数	卒業生数	免許取得率
	社会	国語	英語	理科	数学	中国語	体育	計	地歴	公民	英語	理科	商業	工業	数学	情報	中国語	体育	計	地歴	公民	英語	理科	商業	工業	数学	情報	計					
																													社会	国語			
法	8	0	0	0	0	0	8	10	12	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	14	744	1.9%	
文	25	25	18	1	0	0	69	28	22	31	22	1	0	0	0	104	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	173	85	641	13.3%		
経済	14	0	0	0	0	0	14	11	17	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42	21	816	2.6%		
社会	16	0	0	0	0	0	16	15	17	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48	18	707	2.5%		
経営	7	0	0	0	0	0	7	2	4	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	7	753	0.9%			
国際文化	0	0	6	0	0	1	7	0	0	7	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	8	253	3.2%			
人間環境	8	0	0	0	0	0	8	6	8	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	9	339	2.7%			
現代福祉	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	205	1.5%			
キャリアデザイン	17	0	0	0	0	0	17	16	12	0	0	0	2	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	21	270	7.8%			
GIS	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	47	2.1%			
スポーツ健康	0	0	0	0	0	27	27	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	32	133	24.1%			
理工(工)	0	0	6	9	0	0	15	0	0	0	0	6	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	17	488	3.5%			
情報科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	158	1.9%			
デザイン工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	276	0.4%			
生命科学	0	0	0	12	0	0	12	0	0	0	0	12	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	12	191	6.3%			
小計	98	25	25	19	9	1	27	204	88	92	31	30	19	2	0	32	312	0	0	0	0	0	0	0	0	0	516	252	6,021	4.2%			
科目等	2	0	3	1	0	0	6	2	1	0	4	1	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	8	-	-			
大学院	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	1	4	0	0	0	1	5	7	379	1.8%			
総合計	100	25	28	20	10	1	27	211	90	93	31	35	20	2	0	32	322	0	2	1	4	4	0	0	3	1	0	5	267	6,400	4.0%		

※免許取得率に科目等履修生は含まず

2) 教育実習の状況

2016年度の教育実習実施者数及び実習先内訳は、以下のとおりである（図表4参照）。また教育実習実施者数の経年変化は、＜図表5＞に示した。2015年度の311名に対して、2016年度は346名となっている。全体としてのここ数年の教育実習者数の減少の背景としては、教員養成制度が激動期を迎えようとしていることや、民間企業に対する就職活動との兼ね合いなどの社会情勢が考えられる。また教職課程費の徴収という制度変更の影響もあると考えられる。

教育実習においては、問題が増加していることに学生諸君への注意を喚起しておきたい。2016年度において、教育実習で、実習校から不合格の評価をもらったり、C評価をもらったりするケースが増加している。直前の中止ないし辞退14件、実習評価がC評価となったもの12件、D評価となったもの2件であった。

もちろん、大多数の学生は、実習校にも高く評価され、貴重な経験をしているが、上記のような問題ケースは確実に増加傾向にある。その問題となった特徴は以下のようなものである。

(1) 実習の規律、特に時間規律や指定されたオリエンテーションなどへの対処がルーズであったり、時には指導教員や実習校の指示を忘れていたりするケースである。最初の実習校のガイダンスに無断欠席し、実習中止になるケースもある。時間の約束を守ることは、スムーズな学校運営にとって欠かせないものであり、その点の自覚が足りないものは、実習校にも多大な迷惑をかけることとなる。この点でのルーズさ、社会人としての規律に対処できないものは、教育実習を受け入れていただく資格がないものといわざるを得ない。

(2) 教科の指導力量が不足しているケースである。そのため指導案がきちんと書けない状況になり、ほとんど教壇実習をさせてもらえないままに終了したケースもある。教師を目指すうえでは、そもそも基礎的な学力不足というべきものである。この様なケースのなかには、体育系の部活などを中学や高校でやりたいという意欲だけは鮮明でも、最初から教科の力量をしっかり身につけることをおろそかにしているケースがある。自分の教科の力量についてのきちんとした自己評価ができない状態で教育実習を受けることは許されないと心得るべきである。板書の字があまりに汚い、漢字の間違いが多いなども、しっかり事前に克服しておくことも重要である。また、実習に行く前に、模擬授業を何回か行い、大学教員や友人にコメントしてもらい、授業というもののおよそのイメージを事前に獲得しておくことが不可欠である。それは実習生にとって必須の義務である。

(3) 近年多くなっているのが、就職活動との調整がうまくできずに、実習を欠席したりするケースである。教育実習は、全日程参加が原則であり、例外がないものと心得るべきである。就職のための面接などと競合するときは、教育実習を優先して、就職活動の日程の方を変更することで対応しなければならない。就職活動のため教育実習の欠席を実習校の教員に相談しただけで、実習態度を疑われて実習が中止となるケースも生じている。教育実習を行うということはそれだけの決意を必要とすることであり、多忙を極めるなか教育実習を引き受けてくれる学校や先生方、教育実習を受けてくれる生徒に対する責任という点からも、その点をあいまいにしてはならない。この点に関しては2017年度から、一般の職業の選考開始が6月となり、まさに教育実習と重なる状況が生じているので、一層の計画的な対処と決意が求められる。

(4) もう一つのケースは、対人関係力において、誠実さや熱意を疑われるケースである。もちろんコミュニケーション力が不足していて失敗をすることは多く見られることである。しかしそれは、誠実に対処することで、自らも成長していく機会とすることができる。最も問題を引き起こすのは、当然の指導の課題に誠実に取り組まないようなケースである。定められた課題や業務をこなさないままにする、正当な指導や注意に誠実に対処しない、きちんとした意思表示をしないで指導を受け止めているかどうかよく分からないなどは、実習校にとって最も困ったものである。さらに、明らかに生徒へ間違った対応をして、実習が中止になるケースもある。生徒の個人情報や学外での生徒との個人的な接触は避ける、人権や人間の尊厳に関わる重大な間違いを犯さないなど、基本的なことであるが、重要である。言うまでもなく、教師という仕事は、自分の言葉、体、表情など身体を含む人格全体を使ってコミュニケーションをとり、他者に働きかけていく職業である。誠実に他者とコミュニケーションする心と体を豊かに作り出しておくことが、教師になるために重要であることを、忘れないでほしい。

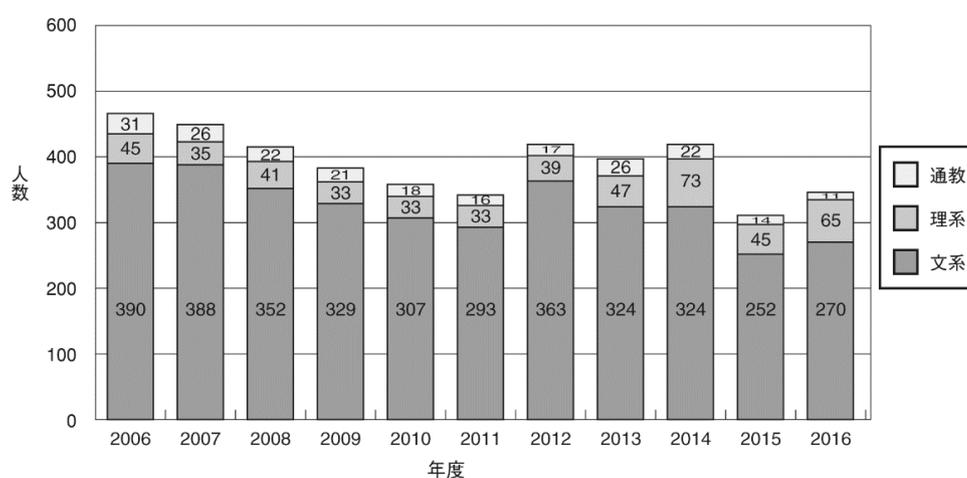
また教育実習を取り巻く環境が年々変化し、厳しくなっている点も留意しておく必要がある。学校現場の困難もあって、教育実習生の受け入れ枠は、むしろ縮小傾向にある。学生自身の出身校であっても、実習生の受け入れ限度（東京都内の公立校の場合、東京都教育委員会が各学校毎の実習生受入数を教師の数などで判断し、振り分ける）を超える場合、拒否されるケースも見られるようになってきた。そのため、実習を1年延期せざるを得

ないという事態も起こりうることを念頭に置いて、できるだけ早い段階で、出身校などに打診し、確実な承諾をもらえるように準備する必要がある。更に、教育現場の困難に対応して、教育実習生にも高い能力と努力が求められてきている。そのため、教育実習の評価が厳しくなっている面もある。教育実習に挑戦しようとする学生は、これらの状況をしっかりと踏まえ、全力でその準備をする必要がある。

<図表 4>2016 年度教育実習実施者数及びその内訳、2015 年度との比較

実習校	文系	理系	通教	計	2015 年度合計数
都内公立学校	40	6	1	47	39
法政大学付属校	39	9	0	48	23
委託校	191	50	10	251	249
計	270	65	11	346	311

<図表 5>教育実習実施者数の経年変化



3) 介護等体験の実施状況

1998 年 4 月入学生より中学校の教員免許取得のためには、7 日間の介護等体験が必要となっている。そのうち 2 日間は特別支援学校、残りの 5 日間は社会福祉施設での体験となる。介護等体験実施者数は、以下のとおりである（図表 6 参照）。

介護等体験でも、実習態度が問題とされるケースが生じている。遅刻、体験に求められる準備の忘れ、なかには体験中の指示に対する対応が問題となり、最悪の場合は体験中止となった学生もいる。体験規律を守ること、誠実かつ全力を傾けて体験に臨むことが求められている。

<図表 6>法政大学の介護等体験実施者数

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
人数	343	374	293	292	266	539	411	499	385	331	411

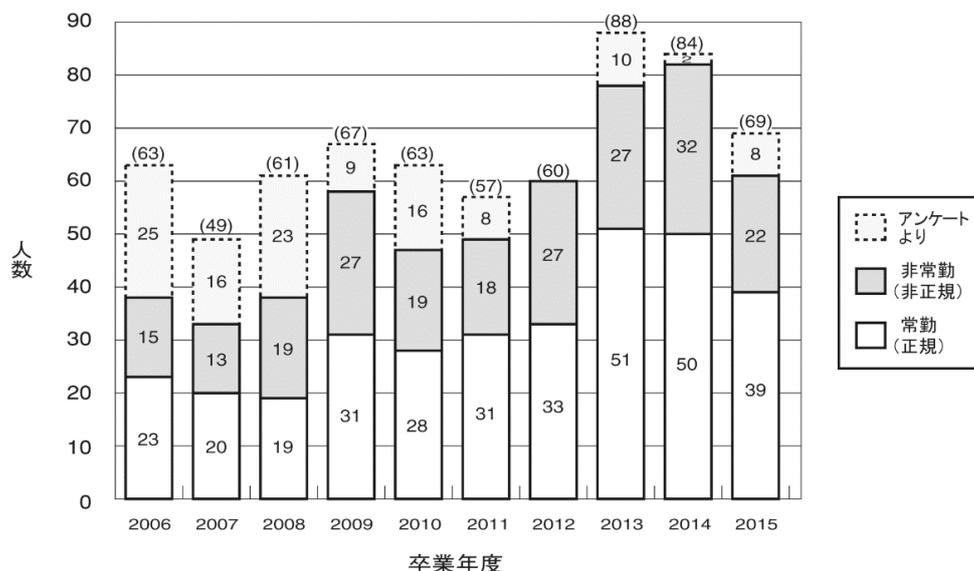
4) インフルエンザ及びはしか（麻疹）等の対策について

はしか（麻疹）の感染による教育実習の中止や延期が、2007 年度に全国的にも大問題となった。法政大学としては 2008 年度から、教育実習生および介護等体験生全員について、はしかの抗体を保持しているかどうかを確認し、免疫保持者および予防接種をして抗体が獲得されたと判断する者以外は実習を受けさせないという厳格な措置を実施した。現在もその措置は継続されている。また、近年新しい感染性の病気の流行も見られるので、各自慎重に予防接種などの対策を講じて、実習に差し支えがないように健康管理に注意する必要がある。

2. 教師への採用状況

教職への就職は、基本的には厳しい現状にある。しかし、正規と非正規の採用を合わせて、最新データである2015年度では70程度が採用されている。前年度よりも15名減少しているが、ある程度の水準にはある。なお、教職への就職者数及びその経年変化は、大学で把握できている人数としては、以下のとおりである(図表7参照)。

<図表7>法政大学卒業生の教職への就職者数の経年変化



なお、グラフの実線部分は、その卒業時の大学としての把握数であり、点線部分は、その後1年間のうちに新たに教職に就いた者の数——卒業後のアンケート調査によって把握——を加えたものである。アンケート調査は隔年に実施している。

いわゆる団塊世代の大量退職という動きが始まり、東京都の採用状況を見ると、小学校段階では、採用数が急増し、採用試験の倍率も低い水準にある。中学や高校でも一定の採用数の増加がある。このチャンスを生かすためにも、教員採用へ向けて一層意識的な対策が求められる。なお、本学卒業生のなかにも小学校教員として採用される学生がいる。一つは、小学校教員資格認定試験に合格した者、もう一つは、小学校教員免許状を取得できる他大学の通信教育課程などにおいて、単位を修得したものである。教職に就きたいという熱い思いを実現する一つの有力なルートとしてこれに挑戦する道もある。

また、東京都の各区などで、「学習指導講師」を教員免許を持つものから採用する計画があるとか、教職を目指す学生から学校現場での学習支援ボランティアを募集する動きが多くある。更には、新規採用のなかで、非常勤講師経験者からの採用の比率が高まっているという実態があり、教職に就く一つの機会としてこれらに挑戦してみることも勧めたい。なお、学習支援ボランティアなどの募集情報は、教職課程センターなどでも紹介しているので、利用してほしい。

3. 法政大学教職課程の増設

学部、学科の改変と増設により、ここ数年で多くの教員免許取得課程の申請を行い、受理された。2016年度に認可・設置されたものは、以下のとおりである(図表8参照)。なお、法政大学全体の教員免許取得課程の状況は、<図表9>(法政大学教員免許取得課程一覧表)を参照してほしい。また、2017年度の認可・設置はない。

<図表 8>法政大学の教員免許取得課程の増設

2016 年度に認可・設置

学部/研究科	学科/専攻	中学校専修	高校専修
公共政策研究科	サステイナビリティ学専攻	社会	公民
スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻	保健体育	保健体育

<図表 9>法政大学教員免許取得課程一覧表

大学の課程〔2017 年度入学者用〕

学部	学科	中学校一種	高校一種
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
	国際政治学科	社会	地理歴史・公民
文学部	哲学科	社会	地理歴史・公民
	日本文学科	国語	国語
	英文学科	英語	英語
	史学科	社会	地理歴史・公民
	地理学科	社会・理科	地理歴史・公民・理科
	心理学科	社会	公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・情報
	国際経済学科	社会	地理歴史・公民
	現代ビジネス学科	社会	地理歴史・公民
社会学部	社会政策科学科	社会	地理歴史・公民
	社会学科	社会	地理歴史・公民・情報
	メディア社会学科	社会	地理歴史・公民・情報
経営学部	経営学科	社会	公民・情報・商業
	経営戦略学科	社会	地理歴史・公民・情報・商業
	市場経営学科	社会	公民・情報・商業
国際文化学部	国際文化学科	英語・中国語	英語・中国語・情報
人間環境学部	人間環境学科	社会	地理歴史・公民
現代福祉学部	福祉コミュニティ学科	社会	福祉
	臨床心理学科		公民
情報科学部	コンピュータ科学科		情報
	デジタルメディア学科		情報
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学科	社会	地理歴史・公民・商業
デザイン工学部	システムデザイン学科		情報
理工学部	機械工学科	数学	数学
	電気電子工学科	数学	数学
	応用情報工学科	数学	数学・情報
	経営システム工学科	数学	数学
	創生科学科	数学・理科	数学・理科

生命科学部	生命機能学科	理科	理科
	応用植物科学科	理科	理科
	環境応用化学科	理科	理科
グローバル教養学部	グローバル教養学科	英語	英語
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	保健体育	保健体育

大学の課程（通信教育課程）〔2017年度入学者用〕

学部	学科	中学校一種	高校一種
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
文学部	日本文学科	国語	国語
	史学科	社会	地理歴史・公民
	地理学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民
	商業学科	社会	公民・商業

大学院の課程〔2017年度入学者用〕

研究科	専攻	中学校専修	高校専修
人文科学研究科	哲学専攻	社会	公民
	日本文学専攻	国語	国語
	英文学専攻	英語	英語
	史学専攻	社会	地理歴史
	地理学専攻	社会	地理歴史
	心理学専攻	社会	公民
国際文化研究科	国際文化専攻	英語	英語
経済学研究科	経済学専攻	社会	公民
法学研究科	法律学専攻	社会	公民
政治学研究科	政治学専攻	社会	公民
	国際政治学専攻	社会	公民
社会学研究科	社会学専攻	社会	公民
経営学研究科	経営学専攻	社会	公民・商業
人間社会研究科	福祉社会専攻	社会	公民
情報科学研究科	情報科学専攻		情報
デザイン工学研究科	システムデザイン専攻		情報
公共政策研究科	公共政策学専攻	社会	公民
	サステナビリティ学専攻	社会	公民
理工学研究科	応用情報工学専攻		情報
	システム工学専攻	数学	数学
	応用化学専攻	理科	理科
	生命機能学専攻	理科	理科
スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻	保健体育	保健体育

4. 教員免許状更新講習

1) 2016 年度講習の実施

今年度(2016年度)は、昨年度から再開された講習を基本的に踏襲して、以下の日程とプログラムで実施した。実施に当たっては、企画・準備・実施を担うプラン委員会を、すでに2回開催した(なお、17年6月に実施にむけた第3回の委員会も予定している)。

①必修領域

日程	内容	担当教員	募集数	受講者数
第1日 8/1(月)	「マクロ・メゾ・ミクロから捉えた学校と子ども」 (午前) 最近の教育政策と学校経営の課題	高野 良一	60名	65名
	(午後) 社会性や道徳性の発達と支援	渡辺 弥生		

②選択必修領域

日程	内容	担当教員	募集数	受講者数
第2日 8/2(火)	「キャリア教育の過去と未来」 (午前) キャリア教育はどこからきたのか? ー進路指導からの展開と転回ー	児美川 孝一郎	60名	63名
	(午後) 社会性や道徳性の発達と具体的な支援 キャリア教育はどこへゆくのか? ー学外連携を中心にー	筒井 美紀		

③選択領域

日程	内容	担当教員	募集数	受講者数
第3日 8/3(水)	「生徒指導上の問題から捉える教育の本質」 (午前) いじめから考える教育の本質	尾木 直樹	60名	61名
	(午後) 特別なニーズ教育に求められる視点	遠藤 野ゆり		
第4日 8/4(木)	「教育の情報リテラシー」 (午前) 教育および社会データの情報検索と活用	田澤 実	60名	62名
	(午後) メディアと情報・学校図書館の活用	坂本 旬		
第5日 8/5(金)	社会科「討論授業の探求」 (午前) 生徒が主役になる社会科・地歴科授業の創造	加藤 公明	30名	47名
	(午後) 論争的・対立的テーマについての社会科の学習方法	佐貫 浩		
	国語科「文学教育(古典・近代)と国語教育」 (午前) 文学教材は是非か、教材としての「小説」	中丸 宣明	30名	26名
	(午後) 古典文学の魅力を伝える	小秋元 段		
	英語科「Creating More Motivating Classroom Environment」 (午前) Activities for making grammar learning more motivating :Recycling the coursebook	ウィリアム スナイダー	30名	24名
	(午後) Exploring L2 Motivation on the Challenge of Teaching in the EFL Classroom	小堀 真知子		
理科「怪しげな科学情報と科学思考」 (午前・午後) 怪しげな科学情報と科学思考	左巻 健男 長島 雅裕	30名	34名	

2) 講習受講者の評価

次に、講習の業績評価として、文部科学省に報告した受講者アンケート結果（受講者評価結果）を掲載しておく。なお、アンケートに記載された具体的な感想やコメントも含めて、この受講者評価については、講習の反省会と位置づけた2016年10月の第1回プラン委員会でも報告し、委員間で情報の共有と意見の交換をし、次年度の課題を明らかにする参考とした。

2016年度免許状更新講習受講者評価結果（法政大学）

講習の名称	受講人数	回答者数	評価項目 I 講習の内容・方法についての総合的な評価				評価項目 II 講習後の、最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価				評価項目 III 講習の運営面についての評価				全体平均			
			4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
			よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分	よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分	よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分	よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
【必修領域】 マクロ・ミクロから捉えた 学校と子ども	65人		39人	22人	2人	0人	44人	17人	2人	0人	47人	15人	1人	0人	43.3人	18.0人	1.7人	0.0人
【選択必修領域】 キャリア教育の過去と未来	63人		47人	15人	1人	0人	43人	18人	2人	0人	45人	18人	0人	0人	45.0人	17.0人	1.0人	0.0人
【選択領域】 生徒指導上の問題から捉える 教育の本質	61人		48人	12人	0人	0人	43人	17人	0人	0人	46人	12人	2人	0人	45.7人	13.7人	0.7人	0.0人
【選択領域】 教育の情報リテラシー	61人		40人	20人	0人	0人	46人	13人	1人	0人	44人	16人	0人	0人	43.3人	16.3人	0.3人	0.0人
【選択領域】 Creating More Motivating Classroom Environment(英語学習の意欲を高める 学習環境づくり)	24人		20人	3人	0人	0人	19人	3人	1人	0人	18人	5人	0人	0人	19.0人	3.7人	0.3人	0.0人
【選択領域】 国語科「文学教育(古典・近代と 国語教育)」	24人		22人	2人	0人	0人	21人	3人	0人	0人	20人	4人	0人	0人	21.0人	3.0人	0.0人	0.0人
【選択領域】 社会科「討論授業の探求」	46人		26人	18人	1人	0人	31人	13人	1人	0人	28人	17人	0人	0人	28.3人	16.0人	0.7人	0.0人
【選択領域】 理科「怪しげな科学情報と科学思考」	34人		23人	9人	2人	0人	23人	10人	1人	0人	23人	7人	3人	1人	23.0人	8.7人	2.0人	0.3人

3) 2017 年度実施に向けた講習の設計

第 1 回プラン委員会においては、17 年度講習の基本設計を議論し、11 月の第 2 回プラン委員会で実施設計を決定し、以下のようなプランを 2016 年 12 月に文部科学省に申請した。前年度との変更点は、選択領域（第 5 日）において数学分野を新たに開講したほか、担当講師を若干入れ替えたことである。

①必修領域

日 程	内 容	担当教員	募集数
第 1 日 7/31 (月)	「マクロ・メゾ・ミクロから捉えた学校と子ども」 (午前) 最近の教育政策と学校経営の課題	高野 良一	60 名
	(午後) 社会性や道徳性の発達と支援	渡辺 弥生	

②選択必修領域

日 程	内 容	担当教員	募集数
第 2 日 8/1 (火)	「キャリア教育の過去と未来」 (午前) キャリア教育はどこからきたのか？ —進路指導からの展開と転回—	児美川 孝一郎	60 名
	(午後) キャリア教育はどこへゆくのか？ —学外連携を中心に—	筒井 美紀	

③選択領域

日 程	内 容	担当教員	募集数
第 3 日 8/2 (水)	「生徒指導上の課題から捉える教育の本質」 (午前) 主体的・対話的な学びに求められる視点	寺崎 里水	60 名
	(午後) 特別なニーズ教育に求められる視点	遠藤 野ゆり	
第 4 日 8/3 (木)	「教育の情報リテラシー」 (午前) 教育および社会データの情報検索と活用	田澤 実	60 名
	(午後) メディアと情報・学校図書館の活用	坂本 旬	
第 5 日 8/4 (金)	社会科「これからの社会科・地歴科教育を考える」 (午前) 生徒が主役になる社会科・地歴科授業の創造	加藤 公明	30 名
	(午後) シティズンシップ教育としての社会科教育の課題と展望	和田 悠	
	国語科「文学教育（古典・近代）と国語教育」 (午前) 文学教育と言語教育、教材としての「小説」	中丸 宣明	30 名
	(午後) 古典文学の魅力を伝える	小秋元 段	
	英語科「Creating More Motivating Classroom Environment: 英語学習の意欲を高める学習環境づくり」 (午前) Activities for making grammar learning more motivating: Recycling the coursebook	ウィリアム スナイダー	30 名
	(午後) Exploring L2 Motivation on the Challenge of Teaching in the EFL Classroom	小堀 真知子	
	理科「怪しげな科学情報と科学思考」 (午前・午後) 怪しげな科学情報と科学思考	左巻 健男 長島 雅裕	30 名
	数学科「これからの数学と数学教育」 (午前) 文明社会のなかの数学	鈴木 麻美	30 名
(午後) 自然数の分割	杉山 健一		

2016年度教職課程センターの報告

1. 法政大学教職課程センターの活動

法政大学の教職課程教育の体制が抱えていた困難を克服し、教員免許を取得し、教員採用試験に挑戦する学生への系統的な指導を実施する目的を持って、2012年4月より、教職課程センターが発足した。2016年度は5年目の活動となった。

センター発足時における課題は以下のようなものであった。

第一に、現在法政大学は3キャンパスで教職課程教育を展開しているが、多摩キャンパス、小金井キャンパスにおける教員養成が、市ヶ谷キャンパスと比べても、体制的に見て大きな弱さを抱えており、各キャンパスに教職課程センターを設置し、相談指導員を配置することで、改善していくこと。

第二に、全学の教員養成のための教職専門教育についてはキャリアデザイン学部が責任を持つシステムを取っているが、全学の教職課程教育について、統一的な方針の下に日常的な指導を展開していく仕組みが不十分であり、教職課程センターを中心にして、全学的な改善、充実を図っていくこと。

第三に、近年の教員採用においては、教員免許取得に至る教員養成の全過程に対する大学としての意識的、日常的な指導、加えて個別的な指導が不可欠になってきており、教育実習や介護等体験を含めて、日常的な相談指導体制を整えること。

第四に、教員採用試験に合格し教職に就くには、学生自身の意識的な努力、系統的な準備が不可欠であるが、教職課程センターの援助によって、学生の採用試験に向けての意識的な構えを作り、学習会を組織するなど、共同で支え合う仕組みを作り出すこと。

2016年度もセンター長に尾木直樹教授（教職課程センター）、副センター長に佐貫浩教授（4月～9月、キャリアデザイン学部）・高野良一教授（10月～3月、キャリアデザイン学部）、そしてセンター運営委員にこの他、児美川孝一郎教授（キャリアデザイン学部）、平塚真樹教授（社会学部）、左巻健男教授（教職課程センター）、筒井美紀教授（キャリアデザイン学部）、遠藤野ゆり准教授（キャリアデザイン学部）、寺崎里水准教授（キャリアデザイン学部）、永木耕介教授（スポーツ健康学部）、林園子助教（スポーツ健康学部）が任じられ、運営に当たった。

また日常的な教職課程を履修する学生への教職相談指導活動を担当する教職相談指導員体制が、2016年度は、市ヶ谷地区は週4日体制、多摩地区週3日体制、小金井地区週3日体制で展開された。合わせて各センターに事務体制が取られており、センター（相談室）の開室日は市ヶ谷地区週5日、多摩地区週5日、小金井地区週5日となっている。

今年度の相談指導員は以下の方々に務めていただいた。

- ・市ヶ谷地区：木村 俊二、笠谷 一夫（10月～）
- ・多摩地区：重田 博、本山 明、高橋 繁
- ・小金井地区：小早川 行雄

2. 教職課程センターの基本性格

教職課程センターは、教職課程委員会が協議承認する基本方針に沿って、法政大学における教職教育のセンターとしての職務を遂行する機関である。具体的には以下のような業務を担っている。

- ① 本学における教職教育の基本方針に沿って、その具体的な内容を計画し、円滑な実施を行う。
- ② 兼任講師を含む教職教育実施のための連絡調整の役割を担う。
- ③ 教育実習や介護等体験に資する行事やガイダンス等について実施内容を決定する。
- ④ 教職課程履修生が記録する「履修カルテ」を管理し、添削指導を担当する。
- ⑤ 教職課程に関する発行物（教職課程年報、教育実習の手引き等）の編集・発行を行う。
- ⑥ 教職を目指す学生への日常的な教職相談指導活動、系統的な援助（特別講座や採用試験対策講座などの開設）

を行う。

- ⑦現職教員の研修への対応（免許更新制度への対応を含んで）をする。
- ⑧教職教育、学生の教員免許取得のための学習・研究に必要な書籍、資料などを蓄積し、学生の利用に供する（教職資料および教職課程実習室の管理、運営）。
- ⑨本学学生の教職への就職等を支援する教育関係同窓生等を含んだネットワークをつくる。
- ⑩本学の教職教育などに関する研究、調査をする。

3. 2016年度の教職課程センターの活動

1) 2016年度センター・相談室利用者数

(1) 市ヶ谷教職課程センター利用者数

利用目的	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
教職関連の書籍利用	121	112	64	49	46	99	160	114	93	75	76	
教職関連の相談・問い合わせ	①教職課程に関する学習相談								1	1		
	②特に教育実習・同事前指導に関する相談											
	③進路に関する相談	2		11	1	1	47	70	47	28	17	19
	④教員採用試験に関する相談	12	18	24	59	66	55	74	73	33	18	47
	⑤その他（教育関連ボランティア活動、卒業生・教員訪問、模擬授業・学習グループづくり その他）	16	26	7	9	2	3	5	9	20	2	7
	⑥教育相談受付 ※窓口対応	17	4	10	18		6	10		5	2	
履修カルテ関連	365	584	36	6	1	1	2		9	15	7	
イベント申込み受付・問い合わせ（講座・模試・見学・シンポジウムなど）	97	29	33	58	45	51	69	84	59	41	80	
TEL・E-mail など問い合わせ	93	26	46	59	181	48	58	53	44	124	144	
その他	291	146	85	180	116	19	25	47	47	16	5	
教職相談指導件数	169	80	64	137	175	49	56	81	65	30	284	
合計	1,183	1,025	380	576	633	378	529	508	404	341	669	
開室日数	20	19	22	21	17	21	21	20	16	16	14	

(2) 教職課程センター多摩相談室利用者数

利用目的	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
教職関連の書籍利用	7	7	14	9	7	3	6	5	9	5	9
教職関連の相談・問い合わせ	①教職課程に関する学習相談	4		1		2		3			
	②特に教育実習・同事前指導に関する相談	1	4	1			2	9	1	17	
	③進路に関する相談			3	1	1			3	6	4
	④教員採用試験に関する相談	3	31		5		1	3			
	⑤その他(教育関連ボランティア活動、卒業生・教員訪問、模擬授業・学習グループづくり その他)	3	3	1				7			2
	⑥教育相談受付 ※窓口対応	5		2	4			2	3		
履修カルテ関連	151	85				183	196	24		18	
イベント申込み受付・問い合わせ (講座・模試・見学・シンポジウムなど)	2	4	22	42			4	14	36		
TEL・E-mail など問い合わせ	2	6	1	8		1	6	7	12	2	2
その他	71	31	16	28	8	16	21	9	12	24	10
教職相談指導件数	65	38	62	71	19	26	75	92	56	37	45
合計	314	209	123	168	37	230	322	166	129	111	70

開室日数	23	18	21	20	7	15	20	21	16	16	19
------	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----

(3) 教職課程センター小金井相談室利用者数

利用目的	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
教職関連の書籍利用	1	2		2			12	3	4		1
教職関連の相談・問い合わせ	①教職課程に関する学習相談							1			
	②特に教育実習・同事前指導に関する相談		2							1	
	③進路に関する相談							2		1	
	④教員採用試験に関する相談							1	3		1
	⑤その他(教育関連ボランティア活動、卒業生・教員訪問、模擬授業・学習グループづくり その他)							2			
	⑥教育相談受付 ※窓口対応		2	1	1		2	7	4	2	1
履修カルテ関連	86	45	3	10		67	116	9	1		1
イベント申込み受付・問い合わせ (講座・模試・見学・シンポジウムなど)	24	3	11			1	8	4	9	10	14
TEL・E-mail など問い合わせ							1				
その他	25		4	2		2		9		2	
教職相談指導件数	109	31	38	41	28	14	62	34	24	49	92
合計	245	85	57	56	28	86	211	64	43	64	109

開室日数	21	18	19	19	7	12	19	17	16	15	16
------	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----

2) 学生に対する教職相談指導活動

(1) 2016 年度センター・相談室別教職相談指導実施件数

相談員・相談実施日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
<市ヶ谷> 相談実施日：月～木曜日	169	80	64	137	175	49	56	81	65	30	284	1,190
<多摩> 相談実施日：火・水・金曜日	65	38	62	71	19	26	75	92	56	37	45	586
<小金井> 相談実施日： 月・水・土曜日（4月～8月）／ 月・水・金曜日（9月～3月）	109	31	38	41	28	14	62	34	24	49	92	522

(2) 市ヶ谷教職課程センターの活動概況

◆教職課程センター相談活動（市ヶ谷） 週4日実施

1) 概況

本センターは、教職課程準備室を経て2012年度に発足し、丸5年を経過した。センターの日常業務は教職相談指導員2名と事務職員3名により運営されている。また、附属施設として主に教職を目指す学生が自由に利用できる「教職課程実習室」と教育関係及び教職に関する書籍を収納する「ライブラリー」がある。週5日間開室され、まさに教職を目指す学生のセンター的役割を担っている。（ただし、教職相談指導員による相談は週4日）

2) センターの利用内容

[1] 主な教職相談の内容

- ①進路相談（公立・私立校）
- ②教員採用試験対策（面接・論文・模擬授業対策等）
- ③模擬授業実習（教育実習事前指導及び教科指導法等の授業準備）
- ④学習指導案の作成

[2] ライブラリーで利用できる主な書籍類

- ①教育関係研究図書・雑誌
- ②学習指導要領及び教科書（中学校・高等学校全教科）
- ③教員採用試験関係雑誌
- ④教員採用試験問題集・参考書
- ⑤教職関係ビデオ・DVD
- ⑥教育関係新聞

[3] 各自治体及び私立校の教員採用試験や学習支援ボランティア等の情報提供

[4] 教職に関する学習スペース（主に教職課程実習室）

3) 主な企画事業

[1] 自治体ごとの教員採用説明会

各自治体からの申し出により、本年度は東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・川崎市・相模原市の担当者が来室し、教員採用試験の概要についての説明が行われた。

[2] 「合格者の体験を聞く会」

毎年2月に自治体や校種・教科などに則して、教員採用試験合格者の体験報告会を行っている。2016年度は、公立・私立中学校・高等学校の国語・社会・英語によるプレゼンテーション及び校種、自治体、教科、私立、教職大学院に分かれての質問コーナーを設けて懇談会を行った。

[3] 学校見学会

最近の学校現場の教育事情を知るために、希望者を対象とする「学校見学会」を4回行った。見学先は、公立中高一貫校、公立高校、通信制サポート校。見学会では、各教科の授業参観、当該校の校長による学校紹介、

学生による質疑などを行った。

[4] 教員採用二次試験対策講座

各自治体の一次試験終了後、外部から面接官を招へいし、本番と同様の形式で「個人面接」を実施した。本年度は20名が参加した。

[5] 教員採用試験対策模擬試験

教職相談指導員の作成による公立校の教員採用試験を想定した「教職教養」「小論文」の試験を年間3回実施した。

[6] 自主学习グループによる教員採用試験対策のための勉強会

昨年度から本年度にかけて相談室に来室する学生が増加したことに伴い、3年生を中心に教科ごとの「自主学习グループ」が発足した。国語・社会・英語ごとに定例会を開催し、教職相談指導員の支援による「論作文作成」「面接練習」や「模擬授業」などを行った。2017年3月現在、35名を超える学生が登録し、熱心な活動が展開されている。

4) 取り組みの成果と課題

[1] 教職を目指す学生の「学ぶ空間」としての教職課程センターの役割の明確化

教職課程センターが設立される前は、教職を目指す学生が集う場所がなく、それぞれ個別に取り組んでいたが、設置されてからの5年間において教職課程センターの「認知度」が飛躍的に高まり、利用者数も年々増加している。集う場所としての「教職課程実習室」はもとより、センター内にある「ライブラリー」は、収納している書籍数が増加したこともあり、「学習情報センター」的な役割を果たしている。特に、教育実習事前準備のための模擬授業を行う学生や教員採用試験受験者にとっては不可欠の場所になりつつあると言っても過言ではない。

[2] 組織的・計画的な教員採用試験対策が功を奏した合格者の増加

本年度教員採用試験合格を目指して「自主学习グループ」に登録した学生の約8割がそれぞれの目標を達成することができた(本年度は、特に私立校が増加した)。この要因として「自主学习グループ」による組織的な取り組みがあげられる。受験者が個別ではなく、こころざしを同じくする者同士の切磋琢磨や励まし合いの中で、計画的に共に学ぶ体験をしたのである。なお、本年度は、卒業生・大学院生の合格者の増加が目立った。

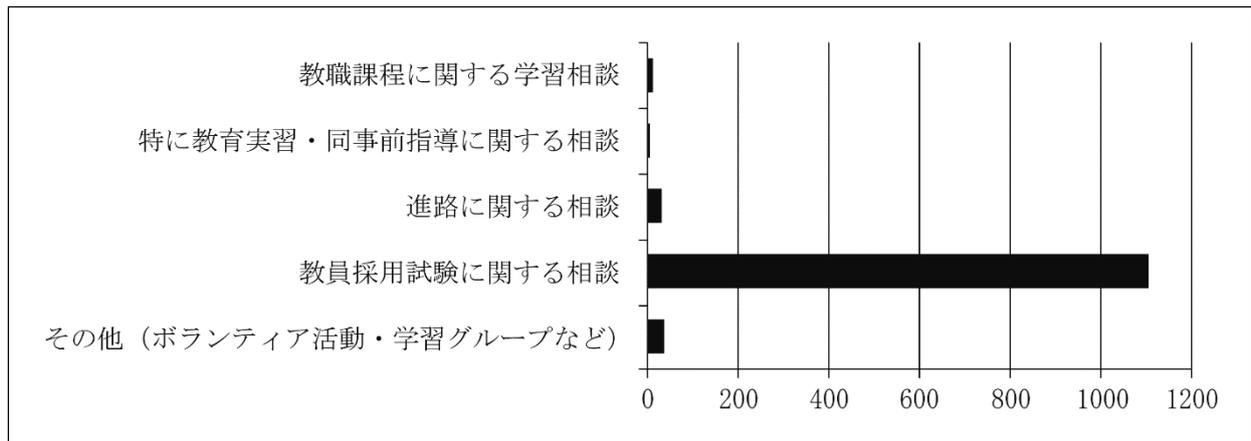
[3] 卒業生との連携を充実し、「教職を学ぶセンター」への取り組みの充実

東京都をはじめ現在、教員として活躍している卒業生も多いが、未だ大学との十分な連携は図られていない。教職を学んでいく上で今日の学校現場の状況を知ることは極めて重要である。卒業生の時代にはなかった教職課程センターの存在を知らせるとともに、卒業生の経験を伝えていただきながら、「これからの教職の在り方」などについて学べるセンターとしての役割を果たすための取り組みの充実を図ることが今後の課題である。

①学部・性別相談件数(2017年2月現在)

○法学部	125人	○文学部	509人	○経済学部	16人						
○社会学部	38人	○経営学部	85人	○国際文化学部	34人						
○人間環境学部	7人	○キャリアデザイン学部	34人	○理工学部	120人						
○グローバル教養学部	4人	○スポーツ健康学部	31人	○生命科学部	83人						
○大学院	38人	○通信教育学部*	14人	○卒業生	52人						
				男子	807人	女子	383人	計	1,190人		
										※本学卒業生で通信教育学部在籍者を含む	

②相談指導の内容別の統計から（2017年2月現在）



※2017年2月現在の集計

※教採試験相談は、試験に関する相談（学習重点、面接・論述・二次の模擬授業対策など）。
進路相談は、受験自治体の選択・私立と公立の選択・併願、免許取得の相談など。

(3) 多摩相談室の活動概況

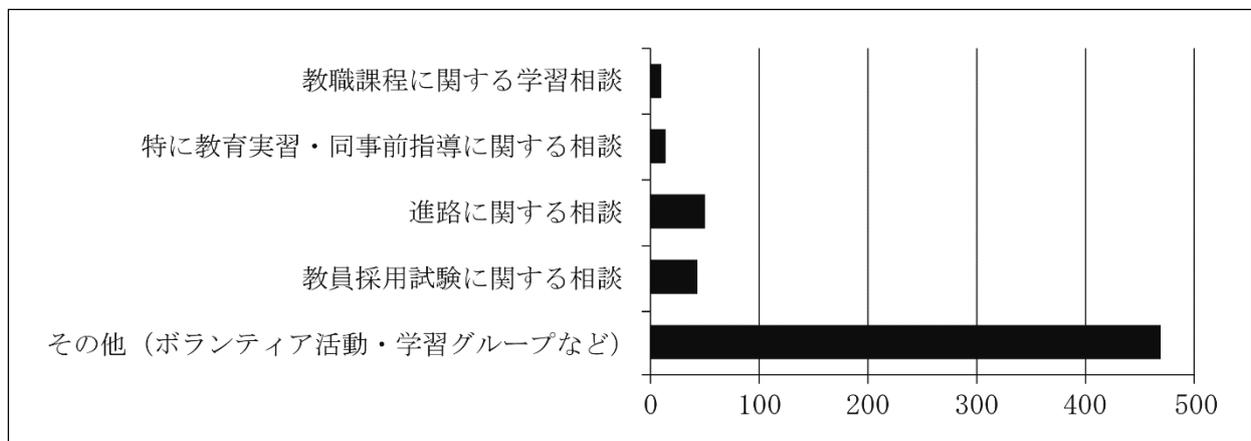
◆教職課程センター相談活動 週3日実施

本年度は、体育科、社会科（2名）の相談員が勤務し、活動を行った。日常的な相談業務に加え、2つの教科ごとに自主学習グループを立ち上げた。採用試験対策や時事問題など、学生たちが互いに課題を持ち寄り、教職に関する理解を深める場をつくった。また、学校見学会に学生を引率し、授業や生徒の様子を見てきた。教員採用試験に向けた対策だけでなく、将来教職に就いてから役立つ知識や技能を身につけ、教育に対する自分の考えが持てるようになることを重視して指導活動を展開した。黒板や図書・DVDなどの教材資料コーナーも設置し、学生たちの利用増加になるよう努力している。また、「多摩だより」を24号まで発行し、学生への支援と広報につとめている。

①学部・性別相談件数（2017年2月現在）

○経済学部	163人	○社会学部	154人	○現代福祉学部	32人
○スポーツ健康学部	227人	○卒業生	10人		
				男子	397人
				女子	189人
				計	586人

②相談指導の内容別の統計から（2017年2月現在）



※2017年2月現在の集計

※教採試験相談は、試験に関する相談（学習重点、面接・論述・二次の模擬授業対策など）。
進路相談は、受験自治体の選択・私立と公立の選択・併願、免許取得の相談など。

3) 教職課程センター各種イベント

(1) 法政大学教職課程センター・キャリアデザイン学部共催シンポジウム

＜市ヶ谷地区＞

いじめ問題を考える3 ―いじめ防止実践の未来像―

日時：2017年2月22日（水） 16:00～18:30

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎2階 S205 教室

プログラム

開会挨拶 高野良一（法政大学教職課程センター副センター長
キャリアデザイン学部教授）

○講演 いじめ防止対策推進法3年の成果と課題～明らかになった今後の展望～
尾木直樹（法政大学教職課程センター長）

○報告 「学生のいじめ・いじめられ体験」から見るいじめの本質と課題
佐貫浩（法政大学キャリアデザイン学部教授）

「なごや子ども応援委員会」の仕組みと活動

高原晋一（名古屋市教育委員会 子ども応援室 首席指導主事）

閉会挨拶 金山喜昭（法政大学キャリアデザイン学部教授）

司会 遠藤野ゆり（法政大学キャリアデザイン学部准教授）

*参加者数 184名（登壇者・会場スタッフ含まず）

＜多摩地区＞

多摩でかたらう 2016

『子どもの気持ちが「わかる」』～若い教師へのメッセージ～

日時：2016年12月21日（水） 17:30～19:30

場所：法政大学多摩キャンパス 総合棟4F 第3会議室 AB

プログラム

教員志望の学生が語る希望・現実・不安

尾木直樹先生からのアドバイス

『子どもの気持ちが「わかる」』～尾木直樹先生のお話～

*参加者数 53名（学生スタッフ含まず）

(2) 教員採用試験二次対策（個人・集団面接）講座

市ヶ谷・多摩・小金井各キャンパスで教員採用試験二次対策講座を開催した。採用試験面接官経験者が講師となり、個人・集団面接（討論）を中心に実施した。

	実施日	延べ参加人数
市ヶ谷キャンパス	7月21日・7月22日	20
多摩キャンパス	7月29日・7月30日	26
小金井キャンパス	8月4日・8月5日	14

市ヶ谷・多摩に関しては外部講師（面接官経験者）を講師に招いて実施した。小金井に関しては外部講師および小早川教職相談指導員が講師として実施した。

(3) 教員採用試験合格者の体験を聞く会

市ヶ谷キャンパス 参加学生：49名	2017年2月22日（水）	12：30～14：30
多摩キャンパス 参加学生：17名	2016年11月15日（火）	17：00～18：00
小金井キャンパス 参加学生：50名	2016年12月10日（土）	14：30～16：00

(4) その他の活動

市ヶ谷キャンパス

①教員採用試験ガイダンス

主に1年生を対象とし、教員になるための心構えや教員採用試験についての説明をした。

第1回 2016年4月11日（月）実施 参加学生：21名

第2回 2016年4月12日（火）実施 参加学生：22名

②都内公立中高等学校・通信制サポート校見学会

第1回 2016年5月12日（木）実施 参加学生：6名

第2回 2016年10月8日（土）実施 参加学生：4名

第3回 2016年11月12日（土）実施 参加学生：12名

第4回 2017年2月21日（火）実施 参加学生：13名

③教員採用試験学内模試

教職教養・小論文の模試を行った。

第1回 2016年3月22日（火）実施 参加学生：30名

第2回 2016年6月30日（木）実施 参加学生：17名

第3回 2016年12月20日（火）実施 参加学生：22名

第4回 2017年3月28日（火）・29日（水）実施予定

④「教職教養・論作文」対策講座

第1回 2016年4月12日（火）実施 参加学生：11名

第2回 2016年4月13日（水）実施 参加学生：16名

第3回 2016年4月19日（火）実施 参加学生：12名

第4回 2016年4月20日（水）実施 参加学生：9名

第5回 2016年4月25日（月）実施 参加学生：12名

第6回 2016年4月26日（火）実施 参加学生：13名

第7回 2016年5月9日（月）実施 参加学生：8名

第8回 2016年5月12日（木）実施 参加学生：7名

第9回 2016年5月17日（火）実施 参加学生：7名

第10回 2016年5月18日（水）実施 参加学生：7名

第11回 2016年5月19日（木）実施 参加学生：6名

第12回 2016年5月23日（月）実施 参加学生：6名

第13回 2016年5月25日（水）実施 参加学生：6名

第14回 2016年5月27日（金）実施 参加学生：6名

第15回 2016年6月13日（月）実施 参加学生：7名

第16回 2016年6月16日（木）実施 参加学生：7名

第17回 2016年6月21日（火）実施 参加学生：6名

第18回 2016年6月22日（水）実施 参加学生：5名

第19回 2016年6月27日（月）実施 参加学生：6名

第20回 2016年6月28日（火）実施 参加学生：10名

第21回 2016年7月5日（火）実施 参加学生：16名

第22回	2016年7月7日(木)	実施	参加学生：14名
第23回	2016年10月4日(火)	実施	参加学生：1名
第24回	2016年10月10日(月)	実施	参加学生：3名
第25回	2016年10月12日(水)	実施	参加学生：2名
第26回	2016年10月18日(火)	実施	参加学生：8名
第27回	2016年10月24日(月)	実施	参加学生：4名
第28回	2016年11月1日(火)	実施	参加学生：4名
第29回	2016年11月7日(月)	実施	参加学生：7名
第30回	2016年11月9日(水)	実施	参加学生：4名
第31回	2016年11月14日(月)	実施	参加学生：4名
第32回	2016年11月17日(木)	実施	参加学生：6名
第33回	2016年11月23日(水)	実施	参加学生：10名
第34回	2016年11月28日(月)	実施	参加学生：6名
第35回	2016年11月29日(火)	実施	参加学生：4名
第36回	2016年12月6日(火)	実施	参加学生：3名
第37回	2016年12月8日(木)	実施	参加学生：2名
第38回	2016年12月13日(火)	実施	参加学生：4名
第39回	2016年12月14日(水)	実施	参加学生：5名
第40回	2017年1月17日(火)	実施	参加学生：3名
第41回	2017年1月25日(水)	実施	参加学生：4名
第42回	2017年1月30日(月)	実施	参加学生：6名
第43回	2017年2月2日(木)	実施	参加学生：20名
第44回	2017年2月13日(月)	実施	参加学生：19名
第45回	2017年2月15日(水)	実施	参加学生：24名
第46回	2017年2月20日(月)	実施	参加学生：28名
第47回	2017年2月22日(水)	実施	参加学生：16名
第48回	2017年2月23日(木)	実施	参加学生：34名
第49回	2017年2月27日(月)	実施	参加学生：22名
第50回	2017年2月28日(火)	実施	参加学生：29名

2017年3月1日・2日、6～9日、13～16日、21～23日 実施予定

「面接練習(個人・集団)」対策講座

第1回	2016年7月11日(月)	実施	参加学生：3名
第2回	2016年7月13日(水)	実施	参加学生：2名
第3回	2016年7月18日(月)	実施	参加学生：5名
第4回	2016年7月20日(水)	実施	参加学生：2名
第5回	2016年7月26日(火)	実施	参加学生：4名
第6回	2016年7月27日(水)	実施	参加学生：6名
第7回	2016年8月1日(月)	実施	参加学生：5名
第8回	2016年8月4日(木)	実施	参加学生：7名
第9回	2016年8月8日(月)	実施	参加学生：6名
第10回	2016年8月11日(木)	実施	参加学生：6名

「模擬授業・集団討論」対策講座

第1回	2016年7月14日(木)	実施	参加学生：1名
第2回	2016年7月28日(木)	実施	参加学生：4名
第3回	2016年8月2日(火)	実施	参加学生：12名
第4回	2016年8月3日(水)	実施	参加学生：5名
第5回	2016年8月5日(金)	実施	参加学生：4名
第6回	2016年8月9日(火)	実施	参加学生：5名

- 第7回 2016年8月10日(水)実施 参加学生：7名
 第8回 2016年8月12日(金)実施 参加学生：10名

多摩キャンパス

学校授業見学会

- 第1回 2016年9月27日(火)実施 参加学生：5名
 (社会科・東京学芸大学附属竹早中学校)
 第2回 2016年12月8日(木)実施 参加学生：3名
 (スポーツ健康学部・特別支援学校)

小金井キャンパス

「教員採用試験」対策講座(教職教養・小論文等)

- 第1回 2016年4月13日(水)実施 参加学生：12名
 第2回 2016年4月16日(土)実施 参加学生：11名
 第3回 2016年4月20日(水)実施 参加学生：1名
 第4回 2016年4月20日(水)実施 参加学生：11名
 第5回 2016年4月23日(土)実施 参加学生：14名
 第6回 2016年4月25日(月)実施 参加学生：5名
 第7回 2016年4月28日(木)実施 参加学生：2名
 第8回 2016年4月30日(土)実施 参加学生：6名
 第9回 2016年5月7日(土)実施 参加学生：6名
 第10回 2016年5月14日(土)実施 参加学生：2名
 第11回 2016年5月21日(土)実施 参加学生：2名
 第12回 2016年10月14日(金)実施 参加学生：16名
 第13回 2016年10月21日(金)実施 参加学生：16名
 第14回 2016年11月11日(金)実施 参加学生：9名
 第15回 2016年11月18日(金)実施 参加学生：9名
 第16回 2016年12月16日(金)実施 参加学生：9名
 第17回 2017年1月20日(金)実施 参加学生：15名
 第18回 2017年1月27日(金)実施 参加学生：10名
 第19回 2017年2月10日(金)実施 参加学生：14名
 第20回 2017年2月13日(月)実施 参加学生：12名
 第21回 2017年2月17日(金)実施 参加学生：14名
 第22回 2017年2月24日(金)実施 参加学生：11名
 第23回 2017年2月27日(月)実施 参加学生：11名

「面接練習」

- 第1回 2016年6月4日(土)実施 参加学生：2名
 第2回 2016年6月11日(土)実施 参加学生：3名
 第3回 2016年6月15日(水)実施 参加学生：3名
 第4回 2016年6月18日(土)実施 参加学生：4名
 第5回 2016年6月22日(水)実施 参加学生：3名
 第6回 2016年6月25日(土)実施 参加学生：2名
 第7回 2016年7月16日(土)実施 参加学生：5名
 第8回 2016年7月28日(木)実施 参加学生：6名
 第9回 2016年8月1日(月)実施 参加学生：1名

「模擬授業・集団面接」対策講座

- 第1回 2016年7月23日(土)実施 参加学生：5名
 第2回 2016年7月30日(土)実施 参加学生：6名

4. 2017年度に向けて

教職課程センターの活動を通して、法政大学の教職教育のいっそうの充実を図っていきたい。

第一に、各学年400人を超える教職課程履修生に対する日常的、系統的な指導と援助の体制をさらに充実していきたい。それは、教職課程を履修し、教員採用試験の合格を目指す学生にとって、大きな支えともなり、また意識的計画的に、かつ友人や教職相談指導員の支援を得て日々の取り組みを進めていくうえでも大きな励ましとなるだろう。特に、学生がグループやサークルを作り、日常的に学びあい、励ましあう関係を組織していくことが重要であり、この点での援助を強めていきたい。

第二に、法政大学の従来の教職課程履修の支援が、市ヶ谷地区に比して多摩地区・小金井地区でどうしても弱くなっていた状況があるが、教職課程センター・相談室の三キャンパス設置は、各キャンパスにおいて同じようなサービスを受けることができる方向への第一歩である。さらなる充実を実現していきたい。

第三に、本学の教員採用試験合格者は、この5年間採用数の増加等で若干の波はあるが上昇傾向にある。教職課程センターによる就職支援活動の成果などによって、教職関係就職者数は、系統的な援助体制を組むことでさらに増加の可能性があるので、より着実に取り組みを展開していきたい。

第四に、法政大学の教員養成の向上のためには、法政大学が歴史的に蓄積してきた教育界における様々なネットワークを最大限活用することが非常に重要となっている。教員養成への様々な援助の人材の把握や、就職に係った情報の把握など、センターが中心となって、新たな支援ネットワークの形成を進めていきたい。

第五に、現在の教職教育にとっては、教育現場との連携を深めることが不可欠になっている。学校現場や施設などからの教育関係のボランティア募集なども多数始まっており、それらと教職を目指す学生との橋渡しをするなど、各種ボランティア参加やインターンシップのセンターとしても機能させていきたい。

5. 2017年度の教職課程センター・相談室のサービス

1) 教職課程センター 市ヶ谷 利用内容

●教職関連の書籍／DVD／ビデオの貸出・閲覧

※一部貸出不可の書籍などもあります。

- 中学・高校 教科書／指導書
- 教員採用試験雑誌「教員養成セミナー」「教職課程」
- 教員採用試験問題集／参考書
- 教育関係新聞「教育新聞」「日本教育新聞」
- 教育関係書籍／ビデオ／DVD など

●学習支援ボランティア（学生ボランティア）情報の提供

●勉強会・学習スペースとしての利用

※教職課程実習室の利用に関しては予約が必要です。

●教職相談指導の実施

※事前申込みを優先いたします。

実施日：月～木曜日 10：00～17：00

申込み方法：kkc@ml.hosei.ac.jp宛にメール、または教職課程センターに直接来室

<相談内容>

- ・就職相談・情報（公立・私立）
- ・教員採用試験対策（面接・論文・模擬授業対策）
- ・模擬授業実習（教育実習事前指導）
- ・教育実習指導案作成 など

●履修カルテの提出

2) 教職課程センター 多摩相談室 利用内容

●教職関連資料・書籍の閲覧

- 教員採用試験参考書・問題集
- 教育関連書籍
- 教員採用試験関連雑誌・新聞
- 中学・高校 教科書／指導書 など

●教職関連の相談指導

※事前申込みを優先いたします。

実施日：水・木・金曜日 10：00～18：00

教科関連の相談の場合、社会科は木・金曜日、保健体育科は水曜日に実施。

申込み方法：kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または多摩相談室に直接来室

<相談内容>

- ・教員免許取得、教職関連の進路相談
- ・教育実習準備に関する相談
- ・教員採用試験向け学習・準備に関する相談
- ・教員採用情報（公立・私立）
- ・学習支援ボランティア（学校・教育）ボランティア関連の相談
- ・スタディグループ（自主的学習活動）づくりに関する相談 など

●履修カルテの提出

3) 教職課程センター 小金井相談室 利用内容

●教職関連の書籍利用

- 教員採用試験の月刊誌（教員養成セミナー）
- 中学・高校 教科書／指導書
- 教員採用試験問題集
- 教育関連書籍・新聞
- 介護等体験、教育実習関連書籍

●教職相談指導の実施

※事前申込みを優先いたします。

実施日：月・水・土曜日 9：00～17：00

申込み方法：kkck@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または小金井相談室に直接来室

<相談内容>

- ・教員採用試験対策（論文・面接・模擬授業対策）
- ・教員採用情報（公立・私立）
- ・教育実習指導案作成
- ・教育ボランティア など

●履修カルテの提出

教職課程センター・相談室の利用および教職相談指導の申込みについては、原則として法政大学教職課程を履修している在学生の方（大学院生・通信教育部生含む）および卒業生の方のみの利用とさせていただきます。一般の方のご利用はできませんので、ご了承ください。

※利用内容については、2017年4月現在の予定となります。

4) 教職課程センター・相談室開室日

教職課程センター・相談室	電話番号	開室日時
教職課程センター 〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 富士見坂校舎 3階	03-3264-5562	月～金 10:00～18:00
教職課程センター 多摩相談室 〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 総合棟 1階	042-783-2087	月～金（土・日・祝除く） 10:00～18:00
教職課程センター 小金井相談室 〒184-8584 東京都小金井市梶野町 3-7-2 西館 1階	042-387-6359	月～土（金除く） 9:00～17:00 (11:30～12:30 除く)

※夏季・冬季休業などで閉室の場合は事前にお知らせします。

※2017年度の開室日時の予定となります。最新の開室日時につきましてはホームページ等で確認してください。

(第一部文責・教職課程担当 高野良一。なお、法政大学の教職課程履修学生に関するデータ等は全て、学務部学部事務課の教職担当者及び教職課程センターの事務担当者によって処理・提供頂いたものである。)